

10. 地域との連携

(1) 河川愛護運動

河川愛護運動は、身近な自然空間である河川への国民の関心の高まりに応えるため地域住民、市民団体と関係行政機関等による流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、河川愛護意識を醸成することを目的としている。赤川での実施例は次のとおりである。

1) ふれあい点検

鶴岡河川公園周辺では、地域住民、公園管理者（鶴岡市）および酒田河川工事事務所と協働で、「川への近づきやすさ」「川の身近な自然環境」等の点検を実施している。点検の結果、堤防法面の階段の改良や除草等の要望が出された。

2) 川の通信簿

親水施設の整備が行われている代表的な親水空間、あるいは、美しい景観を有している河川空間を選定し、市民との共同作業によるアンケート調査により「川の通信簿」点検を実施している。



「川の通信簿」点検の様子

3) 赤川クリーン作戦（河川清掃）

朝暘第五小学校が学校近くの赤川をきれいにしようと、鶴岡市と酒田河川国道事務所とも協力して、昭和 59 年から毎年、河川清掃を続けている。



内川一斉清掃（河川愛護デー）

赤川クリーンアップ

4) 赤川鶴岡河川公園の清掃活動

(社) 鶴岡青年会議所が主体となって、赤川の JR 赤川鉄橋から羽黒橋（河川公園付近）までの堤防および河川敷について、ゴミや不法投棄物（粗大ゴミ）の収集清掃活動を行っている。

赤川では、河川区域内へのゴミの不法投棄は年間を通して多く、中でも、家電や廃材等が多く見受けられ、問題となっている。河川巡視等による監視体制を強化、高度化していくとともに、現在地域と一体となって取り組んでいるクリーンアップ活動や水生生物調査などを利用して、地域住民の意識向上を図っていく必要がある。

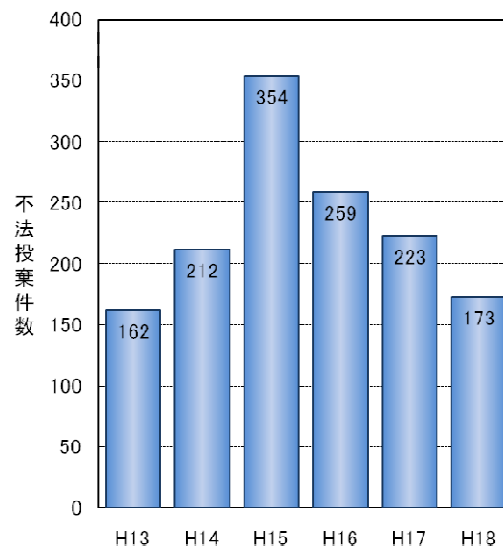


図 10-1 近年の年間不法投棄件数



河川敷への不法投棄の状況

5) 河川愛護モニター

河川愛護モニターを設置し、河川に関する住民の方々の要望やゴミの不法投棄等、日常生活の範囲内で知り得た情報を河川管理者に連絡していただいている。

6) かわとぴあ

川とダムについて遊びながら学ぶことを目的に、今年で18回目の開催となる赤川花火大会（主催：社団法人 鶴岡青年会議所等）と同日開催で連携して赤川を軸としたイベント開催を毎年行っている。

(2) 地域住民の活動

赤川の環境改善に関連した地域住民の活動として、これまでに「河川流量の復活」「ホタルの繁殖活動」「水とくらしを考える」「廃油利用石鹸の普及」「水辺を取り込んだ地域づくり」「川を美しくするための啓発活動」「白鳥など渡り鳥の飛来地での愛護活動」「桜の会等の愛護活動」「川であそぶ会」などが行われている。

赤川の流量を復活させるために、地元住民と国土交通省・山形県・東北電力の協議により、新落合ダムからの放流が実施されたこと、また、内川の環境悪化の防止のために、内川に沿う町内会、商店会、婦人会等が中心となって清掃、美化活動等が実施されたこともその一つである。



市民ボランティアによる川遊びの様子



NPOによる川魚捕りの様子

(3) 水生生物による水質の簡易調査

川底に生息している水生生物は、水質によって生息する種類が異なるため、水質の汚濁状況を表す指標の一つとなる。地域の小中学校と水生生物の生息状況を調査することにより河川の水質を把握するとともに、調査を通じて、川と親しみながら河川愛護・水質保全等への関心を高めていただいている。



水生生物調査